evolution of the convective planetary boundary layer. J. Atmos. Soc., 37, 1558–1572.
Trier, S.B., D.B. Parsons., and T.J. Matejka, 1989: An observational and numerical study of a subtropical cold front during TAMEX. Preprints, Twenty-Fourth Conference on Radar Meterology. Tallahasse, Fl., Amer. Meteor. Soc., 561–564.
Wakimoto, R.M., 1982: The life cycle of thunderstorm gust fronts as viewed with Doppler radar and rawinsonde data. Mon. Wea. Rev., 110, 1060–1082.
Yamada, T., and G. Mellor, 1975: A simulation of the Wangara atmospheric boundary layer data. J. Atmos. Sci., 32, 2309–2329.
山本　晃，1984：春季，中部日本を通過した前線による風と気温のメソ解析．研究時報，36，1–14.

「パタゴニア氷河紀行」

中島暢太郎（文）・近藤裕史（写真）
リブロポート
A5変型版，203頁，2,987円

南米パタゴニアの氷河を記録した美しい写真集である．パタゴニア氷河は世界に残された数少ない秘境として有名であるばかりでなく，南半球や世界の気候に影響を及ぼしていることから，特に気象関係者には注目されている．著者は1968年以来，「京都大学アンデス学術調査隊」の隊長，また文部省海外学術調査「パタゴニア地域の氷河における水文・気象学的研究」の隊長として3度パタゴニアを訪れ，学術調査を行っている．

文部省海外学術調査の報告は「Glaciological Studies in Patagonia 1985–1986」(Bulletin of Glacier Research, No. 4, 1987) として出版されているが，これは一般の人の手には入りにくい学術的な調査報告書であり，貴重な資料ではあるが専門家以外に目に触れることは少ない．またこの調査隊に同行したジャーナリストの報告が「パタゴニア自然紀行・氷河調査隊同行記」(松井覚進著：朝日選書) として出版されている．過去にも幾冊かの本が発行されているが，パタゴニアの美しさを示す写真を掲載したものは少ない．この本では全体のほぼ2/3を占めるカラー写真が，パタゴニア地方の美しさを余すところなく伝えてくれる．氷河の写真だけでなく，自然の豊かさをしめす動植物や雲，あるいはそこに住む人々の生活を写した写真も多数あり，読者は充分にパタゴニアそのものを理解することが出来るであろう．

どんな野外観測や調査にも言えることではあるが，実際にフィールドワークを実行するためには多くの苦労が伴う．しかしこれらの苦労は学術調査報告では表に出ることはない．この本では現地における氷河調査の苦労，地元の人々との心温まる交流，氷河で観測を行っているチリ空軍の職員や，小説で馴染み深いマゼラン海峡に臨む港町プンタ・アレナスで黙々と気象観測を行っている老神父の話など，いろいろと興味深い話題も盛られている．フィールドワークを目指す若い人に一読をおすすめする．

少し注文をつければ，載せられている地図が局部的で，専門外の者には少々分かりにくいので，チリ全体あるいは南米全体の地図を掲載して欲しかった．また最近は一般の人々の地球温暖化や環境問題に対する興味が増大しているだけに，今回の学術調査で明らかになった事実，あるいはその気象学的な意義などについてもう少し詳しく述べて欲しかった．

なお，この本の写真の大部分を撮影された近藤氏は，今年1月に中国雲南省の梅里雪山において雪崩のため遭難された．ご冥福をお祈りする．

（気象研究所　藤谷徳之助）